

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	最近少しずつ地域に馴染んできている。	○	保育所・幼稚園などに挨拶に行き、行事などには行きたいと思う。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	「明るく・楽しく・その人らしく」をモットーに前向きに歩いていく。	○	今後も忘れることなく取り組んで行きたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	理念は理解していても、地域に理解していただくには時間がかかると思う。	○	少しずつ道が開けてきているように感じている。あわてることなく地道に地域に根付いたホーム作りを目指していく。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	玄関先も広く安全なので子供の遊び場になっている。納涼祭・敬老会の地域の方への呼びかけ・近隣の方には花や野菜を食べていただいている。	○	近隣の方には畑でできた花や野菜をおすそ分けしている。ここの畑の野菜は美味しいと喜んでくれる。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	今まで小学校には運動会に行かせていただいていたが、最近近くの保育所・幼稚園に挨拶に行きました。	○	これから保育所などにも行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在ではできていない。	○	職員が増え、少し落ち着いたら取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	本当に地味ではあり、人に認めてもらえる程でもないが、グループホームの雰囲気は変わりつつある。	○	職員の意識改革に日々取り組んでいる。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	考え方の基本は変わらず、「良くなった」と言われたら全員に報告し、励みになるようにしている。朝のミーティングができた。	○	これからはミーティングで話し合って皆で共有して介護をしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	色々指導をしてもらっているが、町との関係は非常に良くなってきていると感じる。	○	いつでも気軽に相談に行っている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	町の職員が講師をしてくれるとの事で、依頼はしてある。	○	これからは色々学ぶ機会ができてくると思う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	町の職員が講師をしてくれるとの事で、依頼はしてある。	○	これからは色々学ぶ機会ができてくると思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の話があれば内容説明をし、金銭・介護の質問については細かく納得されるまで説明している。家族や兄弟で相談し納得していただいている。	○	今後も今の方法で継続していきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱・苦情受付箱を設け、苦情などがあった場合は、説明し、家族とも話し合いの機会を持っている。	○	利用者・家族の方に安心していただけるホームを目指したい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3か月ごとに「かりんの郷だより」に近況報告をつけて家族に送付している。面会時には報告している。	○	継続していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や不満があった場合には上司に報告し、改善できることはしていき解決に向けている。第三者委員に報告するような苦情はない。結果は職員に周知している。	○	利用者・家族の方の信頼関係を大切にし、地域に喜ばれるホームを目指したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回担当者会を兼ねた話し合いの場を持っている。業務の中で出てくる意見は相談しながら対応している。	○	活発な意見が出るようになればと思う。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その時の勤務状況に合わせて対応している。	○	継続していく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は少なくしている。かりんの郷便りや、家族の面会時には紹介している。人員の問題もあり難しい。	○	新しい職員の紹介は「かりんの郷だより」に掲載するようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	指導的存在の職員が異動で来た。頑張ってくれている。雰囲気作りも楽しみになってきた。	○	希望を持って頑張りたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの運営推進会に町役場の仲介で参加している。若い職員も参加させてもらい「目からうろこ」状態である。	○	今職員も刺激を受けてきている。いい結果が出るようになってほしいと思う。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	話を聞いたり、相談にのったりしているが軽減になっているかは分からない。	○	楽しい職場の雰囲気作り。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	高齢の職員も介護福祉士の資格試験に挑戦している。65歳以上で合格した職員もいる。	○	今後の職場が楽しみにしている。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所してしばらくは本人も不安があるので、日常生活において相談にのったり、行動を共にしたりして関係づくりに努めている。	○	今後も継続していく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来られたらグループホームの説明をし、疑問な点には納得されるまで話し合いをします。利用が始まったら面会時に日常生活の報告や、不足している物品については依頼し持ってきてもらったりしている。	○	今後も継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人で暮らしていて毎日出歩いていた方が利用されている。頑固であり人に馴染めなかったが、最近では外出等には出かけたりしている。	○	一人ひとりの要望や希望を把握し喜んでいただける道を常に考えていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	近くの方が多く利用しているので利用者側は馴染みの人や同級生が多い。話したりしている。	○	家族の協力も得ながら慣れていただく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	去年はテーブルを拭いてくれる方もいましたが、今はいません。野菜の収穫等に行くと目を輝かせているのを見ることがある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	食事介助などは家族の協力をいただいている。寝たきりの方などの外出は一緒に行ってもらっている。野菜や仏花などは職員が持ってきてくれる。	○	家族の方も喜んでくれる。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には、お茶を出し、職員は連絡事項は話しますが、後は自室でゆっくりしていただいている。	○	今後も継続していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の方との付き合いは、家族に引き継がれている。	○	まだ田舎であり、父母を大切にしている人が多いと感じる。地域の行事も息子さんが来られて報告している。今後も家族と連携をとり地域と関わっていききたいと思う。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	耳が遠くて話が理解できない時が多いが隣同士や軽度の認知症の方は他の人の手助けをしたりしている。	○	聞こえにくい方には職員が中に入りコミュニケーションをとるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても花を持ってきてくれたり、野菜ができたら持って来てくれたりしている。運営推進委員になってくれる方もいる。	○	ありがたいことですが、死亡退去の方も又親族の利用照会してくれている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で出てきた要望や、観察している中で感じたことは家族と相談しながら具現化していくようにしている。	○	自宅で生活してリハビリパンツを利用し、臀部に湿疹があった方が利用1カ月で今は布の失禁パンツで夜も失敗はない。家族は非常に喜んでいる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	何気ない会話の中から情報を得るようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	集団レクリエーションと個別レクリエーションを除々に行っている。朝5分位から軽体操を行っている。	○	これからレクリエーションを充実させたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書を作成する時には、本人や家族と相談しながら作成している。	○	継続していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しが生じたら、本人や家族の意向を聞き、職員と話し合い現状に沿った介護を早く提供するようにしている。	○	継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務変えで経験豊富な職員が増えてきた。今後が楽しみである。	○	介護の技術の向上に努めたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	納涼祭や敬老会、民謡クラブ、外出などは共にしている。状態悪化や緊急時には看護師も応援してくれる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	先日幼稚園や保育所に挨拶に行った。今後が期待される。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今の所は家族も負担の増えることは喜んでくれない。	○	今後の課題である。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	田舎であり家族が協力しているので今の所、地域包括支援センターに依頼するような問題は出てこない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については家族と相談している。状態が悪くなったら医師の方から家族に説明してくれている。職員も家族の意向も聞きながら対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎週土曜日に専門医が来られる。治療や相談にのってもらえる。病院に受診する時には付き添いもしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力病院に連絡すれば相談にのってもらえる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院したら面会に行くようにしている。家族と連絡を取り合い早期退院に向けて検討しているが、死亡の方が多い。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期になったら本人や家族の意向を聞き、担当医や看護師とも相談し対応している。	○	重度と終末期と言っても病気と老衰は違うと思う。病気の場合は入院にもなる。老衰の場合は「ここでたのむ」と話す家族が多い。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医が夜間でも往診してくれるので、職員は安心して介護ができる。日中も看護師が頻繁に来てくれるので終末も看取ることができている。	○	見守りの回数を増やし、状態観察に気を配っている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	最近はそのような事例はない。あれば話し合い情報を共有しながら関わっていく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの漏洩については職員から誓約書を取っている。記録は気をつけて他者に見られないように保管している。	○ 番号で書類を管理することも検討している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	コミュニケーションの大切さを教えられた。話していたら本人の思いが分かった。	○ これからもっと本人の気持ちを汲み取りたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なかなか自分のペースで生活することは出来ていない。が訴えたことには答えてマイペースでの生活を心がけている。めだかの餌やりや野菜の収穫は楽しみにしている。	○ 今は軽体操に力を入れている。歩行訓練や手足の拘縮防止に向けていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望する店には付き添って行っている。しかし、そのようにこだわる方も今はいない。	○ 今後も継続する。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今、月に1回ではあるが昼食を一緒に作るようにしている。前日より買い物から一緒にしている。	○ やはり給食よりグループホームで作ったのは美味しいので、回数を増やしていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品は聞いてはいるがあまり反応は返ってこない。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中はトイレで排泄を心がけているが、最近寝たきりになった方がいる。歩ける人も見守りや手引き歩行になってきた。	○	手引き誘導でも歩いてトイレで排泄。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の声かけをしている。時間帯も朝から夕方まで入浴できるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	最近では自分の部屋でテレビを見たり、新聞を読んだりしている方もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションを楽しむ方も少なくなってきた。	○	この年度はレクリエーションに力を入れていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く時には財布を持っていく人もいるが、説明しても持って行こうとしない。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのなじみの店に車いすで買い物に行っている。	○	これからも行く。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望や要望が出た時には対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今現在は、電話はする人もいない。手紙も無理になっている。	○	理解できる、出来ないに関わらず声はかけて行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会はできるようにしている。面会者が来られたら自室に案内し、湯茶で接待し後は家族でゆっくり過ごしていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない。必要な時には職員が一人付いている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵はかけていません。	○	徘徊のある方が利用される時には、部屋を空ける時に利用者と相談の上鍵をかけている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	玄関のチャイムが鳴ったら必ず確認し、目配り、気配りに気をつけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物、薬等は一人ひとりの必要に応じて保管、管理をしている。高価なものは家族に持って帰ってもらっている	○	一律の介護から抜け個別処遇にしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止委員会での勉強会は継続している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故等でヒヤッとした時等は機会を通して対応方法を説明している。	○	今後も勉強会をしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難方法を利用者ともども訓練している。	○	地域の方と交流し、協力いただけるようにしたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用する時に家族には話してあります。	○	病状については医師より説明してもらっている。職員には説明し家族にも面会時や、電話で説明している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変があれば職員と相談し、バイタルを図りして必要なら医院に連絡します。そして家族に連絡します。	○	毎日バイタルを計り体調の確認をしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の説明書をファイルに入れて確認するようにしている。	○	状態については医師に報告している。症状が良くなったりした時には報告し薬の見直しをしてもらっている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	最近軽体操を取り入れている。	○	まだ5分くらいであるが継続していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアに気をつけている。	○	継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を把握していて心配りしている。職員同士相談しながら対応している。	○	食欲不振の時には家族の協力を得て好物を持ってきていただいたりしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種はしている。食器消毒・食前の手指消毒を実施している。	○	今後も継続していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買ったらすぐ冷蔵庫に・古いものから使う・調理用具は消毒している。	○	今後も継続していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1階の玄関前に椅子を置き一休みできるようになっている。季節の花を植えて水やりをしてくれている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り季節を味わっていただけるようにしている。朝窓を開け換気している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時には自分の部屋に行き横になったり、テレビを見たりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団やテレビは持ってきている。仏壇を持ってきている方もいる。毎朝皆でお参りしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝換気している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力歩行・手すり・シルバーカー・手引きと誘導にも個性が出ている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一つの行為に一つの声かけで安心感を持っていただく。できることをしていただきながら困難なことは援助していく。	○	今後も継続していく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花を植え、野菜の収穫を楽しみに生活していただく。	○	最近自家製のパイナップルの収穫をして食べた。身体は動かないが、長年田畑を耕していたので要領は知っている方がおり、よく教えてくれる。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

見た所、去年とあまり変わりませんが、最近経験を積んだ職員が数名配置されました。今までできなかったレクリエーションや一人の希望を取り入れて外出するなど個別サービスに力を入れて楽しく日々を過ごしていただきたいと考えています。ホームの理念「明るく楽しくその人らしく」を実現できるように努力します。